

きょうか どうしかつ べまが おかひ
14 狂歌堂鹿都部真顔歌碑 深志神社境内

狂歌堂真顔は江戸時代後期の狂歌師・黄表紙作者で、本名は北川嘉兵衛といった。この歌碑は文政9年(1826)、松本の狂歌連中によって建立された。この碑の場所は「善光寺道名所図会」には富士浅間社辺りに描かれ、昭和26年(1951)深志神社境内に移建された。



すがわら みちざね こうかひ
15 菅原道真公歌碑 深志神社境内

菅原道真公は平安前期の学者・政治家で、遣唐使廃止の建議で知られる。歌は万葉仮名で「古地布賀波丹保飛於古勢世梅農花主那之登亭春那王須連楚」(こちふかばにほひおこせようめのはな 主なしとて春なわすれそ)と刻まれている。嘉永3年(1850)中澤連域門人建碑



こいけまの ぶたい
16 小池町の舞台

明治28年(1895)建造。四輪二層構造で、桃太郎鬼退治、日本武尊、牛若丸、源新羅三郎義光らの日本説話の主題を木彫り以外にも施す。大工棟梁は町内大工7名で、彫刻師(清水虎吉)、塗師、金具、車輪車鍛冶まで地元町会の技術者総動員で一生懸命造った特色ある舞台。平成18年修復



みやむらまち 1ちょうめ の ぶたい
17 宮村町1丁目の舞台

明治20~30年(1887~1897)の製作。四輪・二層構造で町民の長寿と健康を祈る守り神としてスサノオノミコトの飾り物がなされる。大工棟梁は不詳だが、人形師は壺天中、田中徳斎である。平成26年修復



いいだまち 1ちょうめ の ぶたい
18 飯田町1丁目の舞台

建造は明治18年(1885)。建造者は大工矢澤寅三郎。二層構造で、廂小屋根付、上層屋根は唐破風。彫刻は清水虎吉作。下層高欄部分の二十四孝図など、彫刻や鍔金具が多様である。舞台人形は「高砂」で長寿と健康を願う。平成17年改修



いいだまち 2ちょうめ の ぶたい
19 飯田町2丁目の舞台

建造は明治5年(1872)と伝承。大工ほか作者は不詳。二層構成で、二層とも前方三面張出し、廂小屋根はなく、上層屋根は唐破風。車輪は外輪式で前輪が小さく後輪が大きい独特の形状。舞台人形は舞楽の「蘭陵王」で秀逸である。平成19年修復



J 常盤町(ときわちよう)
松本市が市制を施行した明治四十年頃までは、この辺り一帯は長沢町と呼ばれていたが、家並も続かない新開地であった。大正三年四月に区長制がしかれたのを機に長沢町は七区に分けられた。その際この地は、松本の松に因んで常に変わらぬ常盤の松をイメージして永久不変を願って常盤町と命名された。

K 栄町(さかえちよう)
松本市が市制を施行した明治四十年頃までは、この辺り一帯は長沢町と呼ばれていたが、家並も続かない新開地であった。大正三年四月に区長制がしかれたのを機に長沢町は七区に分けられた。その一つが栄町である。この町名には町の発展を願う町民の思いが込められている。

L 錦町(にしきちよう)
松本市が市制を施行した明治四十年頃までは、この辺り一帯は長沢町と呼ばれていたが、家並も続かない新開地であった。大正三年四月に区長制がしかれたのを機に長沢町は七区に分けられた。その一つが錦町である。この町名には町の発展を願う町民の思いが込められている。